

工学院大学研究報告ワードテンプレート (タイトル) －技術研究報告形式－ (サブタイトル)

工 学 花 子*1, 情 報 太 郎*2, 機 械 次 郎*2 (名前)

Word Template of Research Reports of Kogakuin University(Title) －The Format of Research Report－ (Subtitle)

Hanako KOGAKU*1, Taro JOUHO*2 and Jiro KIKAI*2(Name)

Abstract

Kogakuin University Library (Tokyo Urbantech Library) provides a word template file for the Research Reports of Kogakuin University.

Keywords: Windows, Word, Technical Report, Template

1. 原稿用紙 (見出 1)

1.1 タイトルその他 (1 ページ目上部) に関して (見出 1.1)

研究報告の 1 ページ目上部には、表題、著者名を和・英両分で書き、脚注として著者の所属 (大学名・学部・学科・身分、勤務先) を 7.5 ポイントで書いてください。継続報告である場合は (第 1 報) あるいは (その 1) のように書いてください。

- (1) 論文表題は論文内容を適確にしめすものとする。必要に応じて副題をつけることができます。
- (2) 表題の文字は 14 ポイント、著者名の文字は 11 ポイン、見出の文字は 10 ポイントで書いてください。
- (3) 和文の論文には別紙で英文要旨とその和訳をつけてください。長さは 200 語以内とし、2 行送りとする。Abstract の文字は 9 ポイント、アブストラクトは 8 ポイントで書き、アブストラクトの後に、3～5 語のキーワードを付記してください。
- (4) 英文 (独・仏) の論文には別紙で和文要旨をつけ、長さは 500 字以内とすること。

1.2 本文に関して

本文は 1.1 の「タイトルその他」に続けて記述してください。記述に関しては、このテンプレートファイルを用いて作成するか、あるいは、任意の A4 判の用紙を利用することができます。その場合には、執筆要領を参照してください。

文字数は 25 文字×45 行×2 段 横書き

2. 原稿提出および枚数

このテンプレートファイルを用いて作成した A4 判の用紙、8 枚以内とする。必ず制限枚数におさまるようご注意ください。

提出原稿は、本文の正・副各 1 部および CD-R で提出してください。また、必ず規定の原稿表紙をつけてください。

3. 原稿の書き方

論文の体裁は、一例として次の順序のように

- ① まえがき
- ② 本文
- ③ 結論
- ④ 付録、その他
- ⑤ 謝辞・参考文献 などとすること。

ただし、以上は一つの例であり、著者はその内容に適した最も効果的な形式を選ぶことが望ましい。

文字の大きさ：ワープロの場合、本文は 9 ポイント活字を標準としてください。参考文献の文字は 7.5 ポイントを使用してください。

*1 工学院大学工学部機械工学科教授

*2 大阪株式会社開発部

4. 図と表, 写真

図と表:原稿用紙の任意の箇所に直接書いてください。

表 1 表示 (表の表題) ゴシック・7.5 ポイント

可	不可
一つの	1つの
二, 三の例	2, 3の例
一例をあげると	1例をあげると

写真:原稿用紙の任意の箇所に直接張り付けてください。

- ・図面, 写真, 表の文字や数字は本文と同じ大きさであること。図・写真とも, 図とし1から順番に番号をつけてください。

図 1 表記 (図の表題) ゴシック・7.5 ポイント

5. 研究報告の記述

研究報告の本文は適当に区分して, 見出し (章, 節, 項) をつける。

本章の区切りには読点 (,) あるいは句点 (.) を用いること。

普通用いられる外国語の術語, 物質名はなるべく日本語 (カタカナ) で書き, 外国人名は殴字の活字体ではっきり書いてください。ただし, 周知の術語になっているものはカタカナ書きとします。

図 2 記述 (図の表題) ゴシック・7.5 ポイント

数量を示す場合および序数的表現の場合には, アラビア数字を使ってください。ただし, 漢字などと結合して名称を表すものは漢字とします。

6. 研究報告の用字・用文

研究報告に用いる漢字は原則として常用漢字とし, かなは現代かなづかいとしてください。

文章は口語体としてください。

図 3 研究報告の用字

図 4 研究報告の用字の写真

7. 博士論文の要旨について

本学で博士の学位を授与された者については研究報告に論文内容の要旨および論文審査結果の要旨等を掲載します。

表 2 博士論文

博士	論文
一博士	123456
二, 三の論文	2, 3
例の博士論文	7 8 9 0

図 5 博士論文の図

- 11) (国際会議例) Y. Yamamoto, S. Machida, and K. Igeta, "Micro-cavity semiconductors with enhanced spontaneous emission," Proc. 16th European Conf. on Opt. Commun., no.MoF4.6, pp.3-13, Amsterdam, The Netherlands, Sept. 1990.
- 12) (国内大会, 研究会論文集の場合) 著者名, "標題," 学会論文集名, 分冊または号, no.を付けて論文番号, pp.を付けて始め-終りのページ, 月 (英語) 年.
- 13) (国内大会, 研究会論文集例) 川上三郎, 川口四郎, "紫外域半導体レーザ," 1995 信学全大, 分冊 2, no.SB2-1, pp.20-21, Sept. 1995.

図6 博士論文の図 2

図7 博士論文の図 3

図8 博士論文の写真

参考文献

- 1) (雑誌の場合) 著者名, "標題," 雑誌名, 巻, 号, pp.を付けて始め-終りのページ, 月 (英語) 年.
- 2) (雑誌例 1) 山上一郎, 山下二郎, "パラメトリック増幅器," 信学論(B), vol.J62-B, no.1, pp.20-27, Jan.1979.
- 3) (雑誌例 2) W. Rice, A. C. Wine, and B. D. Grain, diffusion of impurities during epitaxy, Proc. IEEE, vol.52, no.3, pp.284-290, March 1964.
- 4) (著書, 編書の場合) 著者名, 書名, 編者名, 発行所, 発行都市名, 発行年.
- 5) (著書, 編書例 1) 山田太郎, 移動通信, 木村次郎(編), pp.21-41, (社)電子情報通信学会, 東京, 1989.
- 6) (著書, 編書例 2) H. Tong, Nonlinear Time Series: A Dynamical System Approach, J. B. Elsner, ed., Oxford University Press, Oxford, 1990.
- 7) (著書の一部を引用する場合) 著者名, "標題," 書名, 編者名, 章番号または pp.を付けて始め-終りのページ, 発行所, 発行都市名, 発行年.
- 8) (著書の一部引用例 1) 山田太郎, "周波数の有効利用," 移動通信, 木村次郎(編), pp.21-41, (社)電子情報通信学会, 1989.
- 9) (著書の一部引用例 2) H. K. Hartline, A. B. Smith, and F. Ratliff, 的 nhibitoryinteraction in the retina, in Handbook of Sensory Physiology, ed. M. G. F. Fuortes, pp.381-390, Springer-Verlag, Berlin.
- 10) (国際会議の場合) 著者名, "表題," 会議名, no.を付けて論文番号, pp.を付けて始め-終りのページ, 都市名, 国名, 月 (英語) 年.